

オーストラリア学会報

Australian Studies Association of Japan

第39号

2003年10月8日

<http://pweb.sophia.ac.jp/~s-yuga/asaj2/>

訃報

当学会の副代表理事であられる廣田耕司氏が、去る7月18日午前4時14分、療養中の東京都内の病院で亡くなりました。享年66歳。当学会に賜りました多大なる功績に感謝申し上げますとともに、ご逝去を悼み、ご冥福をお祈り申し上げます。なお、同22日、23日に行われました葬儀には、学会より献花をさせていただきました。



追悼特別寄稿

廣田さんを偲ぶ

福嶋 輝彦（桜美林大学）

7月18日、突然の訃報が届いた。89年のオーストラリア学会創立以来の役員である、廣田耕司理事が逝去されたというのだ。6月の全国研究会の懇親会では、「オーストラリア学会と名古屋商科大学の益々のご発展と、皆様のご健勝のために」と、元気に乾杯の音頭を取ってもらった廣田さんが、そのわずか一月後にお亡くなりになるとは、まさに晴天の霹靂であった。

廣田さんに初めてお会いしたのは、大学院修士課程1年のまだオーストラリア学者になれるかどうか先も知れない、文字通り青二才の頃だった。オーストラリア研究で身を立てようと志す大学院生が希少種だった頃だからだろうか、当時日豪調査委員会の事務局長だった廣田さんは、何かにつけて私のことを可愛がってくれた。修士2年時に一年間オーストラリア国立大学(ANU)に留学したときにも、委員会が発行していた『日豪ブレイク』というジャーナルにオーストラリアの政治・外交に関する記事を寄稿させてくれた。自分の文章が初めて活字となる機会をいただいただけでなく、留学中のよいお小遣い稼ぎにもなった。もっとも、帰国後は文体について、手短ながらもスパイスの効いた助言もいただいたが。

このように、18歳で大学に入学して以来、「象牙の塔」から離れたことのない私にとって、廣田さんは実社会の師だった。オーストラリアとはそれまでほとんど接点がなかったにもかかわらず、事務局長に就任するや否や、日豪調査委員会という自分に与えられた仕事に正面から取り組むだけでなく、その仕事を思い切り楽しんでやろう、とする姿には多くを教えられた。大手町の日経新聞社内の廣田さんのオフィスは、オーストラリアの新聞が読める、ANUの関係者がしばしば訪れるので博士留学への「顔つなぎ」ができる、冷蔵庫がある、といった理由で、近くに寄ったついでにしばしば「ご挨拶」に通ったが、そういう私に廣田さんは何一つ嫌な顔をすどころか、冷蔵庫の中のを囲んで、あるいは神田の焼鳥屋で、オーストラリアからのお客様に日本の真の姿を見ていただくことを大義名分に、日経新聞社とサンケイ新聞社の間の露天居酒屋「シャンゼリゼ」で、「社会勉強」をさせてくれた。そこでの話題は、オーストラリアに留まらず、本土復帰以前の沖縄の様

子など、豊富なジャーナリスト経験に基づいた興味深い話をいくつも聴かせてもらった。

こうして廣田オフィスには自然にオーストラリアに関わりのある若者が集うようになり、それと日経新聞社の廣田さんの同僚の方々などを交えて、日本人は英語を、オーストラリア人は日本語を話す私的サークルができていった。ご自宅にまで招いていただき、ご家族を交えたパーティーで、様々な方と交流させていただいた。あるとき用もないのに足繁く通うのはお邪魔かなと恐る恐る尋ねてみると、「臭いのするところに何度も無駄足を運ぶお前のやり方は正しい」と逆に励まされ、却って恐縮したこともある。実際、インターネットなどない当時、一介の大学院生にすぎない私にとって、廣田さんは貴重なオーストラリア情報源の一つであると同時に、心強い応援団だった。

やがて、日経新聞社から日経 BP 社に移られて、オーストラリアとは直接関係のない仕事に変わってからも、いち早くパソコンをモノにする一方で、日豪合同セミナーの実行委員会に毎年参加され、オーストラリア学会の役員として、オーストラリア学会のホームページの立ち上げや会員業績一覧の作成にもご尽力いただいた。「だって僕の家はワラビー（埼玉県蕨市）だから」と冗談を言いながらオーストラリアを愛し、日本でのオーストラリア研究の立ち上げと定着を徹底的にサポートしてくれた廣田さんには、公私ともども大変お世話になった者の一人として心よりお礼申し上げたい。

今日オーストラリア学会の会員数も二百名を越え、全国研究大会の開催や学会誌の発行も滞ることなく、着実に運営されている。学会の発展に大きく貢献してくれた廣田さんに、一つだけ心残りなのは、「俺が BP 社にいる間にお前の本を出させてくれよ」という期待にとうとう応えられないままに、お別れしなければならなくなったことだ。でも、今回この文を書くに当たって、この廣田さんの言葉を思い出し、改めて自分としても研究の集大成を完成させなければ、という気持ちを新たにされた。「死せる廣田、生ける福嶋を励ます」ではないが、最後まで私を励まし続けてくれた廣田さん。本当にゆっくりと休んでください。そして、オーストラリア学会を見守ってください。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



本年6月の全国大会懇親会で乾杯の挨拶をされる廣田理事

1．2003 年度総会・全国研究大会が6月14日（土）と15日（日）の両日、名古屋商科大学大学院キャンパスで開催されました。多大なご協力をいただきました名古屋商科大学・鎌田真弓理事はじめ、関係各位に厚くお礼を申し上げます。

2．総会報告（2003 年 6 月 15 日開催）

(1) 2002/2003年度事業報告・決算報告

下記の事業報告が決算報告（別掲）及び監査報告と共に承認されました。

『オーストラリア研究』第15号（2003年3月）を発行。

『オーストラリア学会会報』第36号、第37号、第38号を発行。

第14回全国研究大会（2003年6月）を名古屋商科大学にて開催。

(2) 2003/2004年度事業計画・予算案

下記の事業計画が予算案（別掲）と共に承認されました。

『オーストラリア研究』第16号（2004年3月）を発行する。

『オーストラリア学会会報』（年3回程度）を発行する。

『会員名簿』（2003年9月現在）を発行する。（10月発行予定）

第15回全国研究大会（2004年6月）を国立民族学博物館（大阪）にて開催する。

3. 第5期第4回理事会報告(2003年6月15日)

2002/2003 年度決算報告

【収入の部】

前年度からの繰越金	935,851	円
一般会費	1,245,000	
雑収入	4,033	
収入合計	2,184,884	円

【支出の部】

印刷費	893,654	円
会議費	255,981	
謝金	0	
消耗品費	16,597	
通信費	172,110	
雑費	15,000	
支出合計	1,353,342	円
差引残高	831,542	円

2003/2004 年度予算

【収入の部】

前年度からの繰越金	831,542	円
一般会費	1,000,000	
賛助会員	10,000	
雑収入	10,000	
収入合計	1,851,542	円

【支出の部】

印刷費	750,000	円
会議費	150,000	
謝金	10,000	
消耗品費	20,000	
通信費	180,000	
小計	1,110,000	
予備費	741,542	
支出合計	1,851,542	円

2001年12月-2004年12月役員一覧

[代表理事] 谷内 達

[副代表理事] 小林 宏、関根政美、廣田耕司

[事務局長] 福嶋輝彦 [副事務局長] 北村育子

[庶務担当理事] 橋本雄太郎
[学会誌担当理事] 有満保江、安藤 充、鎌田真弓、小林信一
[会報担当理事] 岡本哲明、鈴木雄雅
[地域担当理事] 石垣健一、加賀爪 優、傳田 功、遠山嘉博
[監事] 岡崎一浩、鈴木顕介

4 . 大会報告者（海外在住者）への交通費助成のお知らせ

第 13 回全国研究大会から、報告される会員には海外在住者に限り、交通費助成（一律 5 万円）を行うことになりました（2001 年 12 月 18 日第 5 期 1 回理事会決定）。前年 11 月末日までに事務局あて書面（メール可）にて、その旨事務局まで申し出てください。12 月開催予定の理事会で申請案件を審議、決定をいたしますので、一般の個別報告の申し込み時期より前になります。ご注意ください。

5 . 『オーストラリア研究』研究文献目録掲載のお知らせ

第 12 号以降、会員の研究文献目録を継続して掲載しております。引き続き会員の協力をお願いします。発表された著書、論文、報告書、翻訳などのなかから、オーストラリア学会の趣旨に関係する目録未掲載の研究文献を選び、お知らせください。

編集作業の都合上、電子メール(またはテキストファイルを含んだ FD)をご利用ください。

[記入例] は第 15 号 (2003.3) を参照し、掲載書式に必ず準じる形でお送りください。

締切りは 2003 年 10 月 30 日 (期日厳守)

連絡先：オーストラリア研究編集委員会

〒252-8510 藤沢市亀井野 1866 日本大学生物資源科学部 小林 信一

: 0466-84-3656 Fax: 0466-80-1178 E-mail: kobayashi@brs.nihon-u.ac.jp

なお、受信した旨をお知らせするメールが必ず返信されますので、ご確認ください。

6 . 『オーストラリア研究』バックナンバー（第 4 号～第 10 号）半額セールのお知らせ

在庫処分のため、『オーストラリア研究』バックナンバーのうち第 4 号から第 10 号までに限り、定価の半額（1 部 1,000 円）にて会員の皆様方に頒布いたします。この機会にどうぞお求めください。バックナンバーのタイトルについては、学会ホームページをご参照ください。

〒194-0294 東京都町田市常盤町 3758 桜美林大学国際学部 福嶋輝彦研究室気付
オーストラリア学会事務局 : 042-797-2661(代) / 042-797-9467 (直)

FAX : 042-797-2743

E-mail:terryf@obirin.ac.jp 2002 年より事務局住所が変わりましたので、ご注意ください

会費振込先：00190-3-157063 加入口座名：オーストラリア学会

本会報は学会記録以外に、会員のご意見やご要望を掲載します。意見、著書、新刊、訳書、投稿など、事務局または会報担当理事（鈴木、HAF00025@nifty.ne.jp）までお送りください。

[編集 / 印刷担当：朝水宗彦（立命館アジア太平洋大学）・田澤佳昭（道都大学）]